

第2回 サイファイ・フォーラム FPSS

第1回サイファイ・フォーラム FPSS 研究討論会

プログラム・発表要旨（別紙参照）

日時： 2017年10月28日（土） 13:40～16:25

会場： 日仏会館 509会議室



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25
電話：03-5424-1141

会費： 一般 1,000 円、学生 無料（飲み物は各自ご持参ください）

会終了後、懇親会を予定しています。
お時間のある方はご参加いただければ幸いです。
ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

サイファイ・フォーラム FPSS 呼び掛け人
サイファイ研究所 ISHE 代表 矢倉 英隆

第1回 サイファイ・フォーラム FPSS 研究討論会 プログラム

- (1) 13:40-13:45 矢倉英隆： イントロダクション
- (2) 13:45-14:20 牟田由喜子： 日本におけるサイエンス
コミュニケーションの歴史と現状
- (3) 14:20-14:55 白石裕隆： 50歳からの「セミ（プチ）
矢倉氏的生活」のススメ
- (4) 14:55-15:30 林 洋輔： 「文理融合」の実質と哲学の
位置——「体育学」の事例から考える——
- (5) 15:30-16:05 佐賀徹雄： 生物多様性農業
- (6) 16:05-16:25 総合討論
- (7) 16:45- 懇親会

第1回 サイファイ・フォーラム FPSS 研究討論会

要 旨

1) 牟田由喜子：日本におけるサイエンスコミュニケーションの歴史と現状

私は、インフォーマルな科学教育アプローチにて、科学技術と縁遠い立場にある市民 (Indifferent public) を対象にしたサイエンスコミュニケーションの方法論について研究しています。一方で、この研究とは少し離れますが、科学技術立国を維持、強化するための日本の科学コミュニケーション政策はどのように位置づけられてきたか、なども修士論文では触れてきたので、英国、米国などの先進国諸国の流れと日本の現状を交えて少しですがお伝えできればと思います。また、決して知識は深くありませんが、科学哲学との関連として「トランスサイエンス」「科学技術社会論 (STS)」の流れなどにも少し触れてみたいと考えております。

2) 白石裕隆：50歳からの「セミ (プチ) 矢倉氏的生活」のススメ

矢倉氏は、フランスでの思索では、日本の日常生活で体験することができない、「広大な思索空間に沈んでいくイメージ」をもつことができると語っている。この「素潜り100m」に相当する体験を一般生活者が真似をすることは難しいが、「少しの視点の獲得・転換」をきっかけに、シュノーケリングレベルまで「水面下の世界」を覗き見することは可能と考える。そんな「セミ (プチ) 矢倉氏的生活」の方法論について、当方の見聞体験や考え、社会実践取組者の事例を整理して紹介し、科学と哲学の融合的思索の一步としたい。

3) 林 洋輔：「文理融合」の実質と哲学の位置—「体育学」の事例から考える—

人文社会科学と自然科学の学際的な共同研究については現在までに多くの事例を指摘できるのであって、哲学と自然科学との協働事例においてはポパー&エクルズの『自我と脳』、またはリクール&シャンジューの『脳と心』などが挙げられる。ところで、体育学は哲学や歴史学、社会学や人類学といった人文社会系学問に加えて運動生理学あるいはバイオメカニクスや測定評価学といった自然科学系学問、さらには障がい者スポーツを研究対象とする「アダプテッド・スポーツ科学」や「介護福祉・健康づくり」専門領域といった社会貢献を企図した分野に至るまで「人間の身体運動」をいわば鍵語としてあらゆる学問領域が結集する学際的分野である。「文理融合」「学際」のこれからのあり方と科学研究における哲学の貢献方途について、体育学から考えてみたい。

4) 佐賀徹雄： 生物多様性農業

退職後に趣味の延長で、農業のまねごとを新潟県の佐渡で 8 年間行いました。主な栽培作物は、米、小麦、果樹（主にブルーベリー）、果菜（主にトマト）などです。放棄されて荒れた休耕田約 3000 坪を、生物多様性を促進するための耕作地としてデザインし直し、無農薬・無化学肥料で栽培を行ってみました。自然に近い環境条件での農業には、どのような問題があるかを探ってみましたということです（生物多様性農業についての私の考えを簡単にまとめた資料を PDF ファイルにしました。ご参照いただければ幸いです）。FPSS では、この様子をごく簡単にご紹介させていただき、これを切り口に、それまで私が漠然と考えていた「自然」とは何か？哲学の根底にある自然観とはどのようなものかを、皆さまのご意見お伺いさせていただきながら議論させていただければと思います。また農業の「経験」は初めてでしたが、人間にとって経験とはなにか、経験と認知の限界の問題なども科学の形而上化に関連してご議論いただければと考えています。

ファイル 1 : <http://hidetakayakura.webs.com/Saga%20doc-1.pdf>

ファイル 2 : <http://hidetakayakura.webs.com/Saga%20doc-2.pdf>